

POEM'97 大阪開催!

8月2、3の両日、"楽しく学ぶマルチメディアのパーティ" POEM'97が、大阪市のATC(アジア太平洋トレードセンター)にて開催されました。北海道支部からは、会員9名、道都短大学生7名、スペシャル参加の道都短大野口先生、丸焼き塩谷さんの奥さんとお子さん(6カ月!)の過去最大メンバーで訪れました。

今年のPOEMのポイントは、全員参加型のイベントであることです。参加者は「工房」と呼ばれるプロジェクトに属することが原則で、それぞれの工房は期間中「お店」を開店し、そこでなにかしらの制作物を作り上げます。最終日には工房ごとのプレゼンテーションの後、一般来場者を含む参加者全員の投票で成果を競います。



吉村です。

北海道支部は、事前に「ゼンマイ・ハグルマ工房」と「デジタル学校新聞工房」を企画、それぞれ万全の布陣で臨みました。各工房の詳細は武田先生と由水先生の両親方の報告に譲りますが、コンテストの結果は、残念ながら優勝を逃してしまいました。しかし、連日30度を超す猛暑の中、「ゼンマイ・ハグルマ」は会場全体の人寄せパンダとしての役割を果たし、「デジタル学校新聞」はプリンタ大不調にもめげず、学生たちの努力の甲斐あって期間中3号のDTP新聞を発行しました。来年また工房コンテストが開催されるなら、今度こそは優勝だ!

さて、会期中は工房作業に没頭し、なにわの夏をこれっぽちも体験できずにいた北海道勢でしたが、最終日片付け終了後、ようやく「くだおれの関西を満喫したい!」という欲求がもりもりと湧きおこってきました。おいしいものを食べたい、でもどこへいったらいいのかわからない...そんな私たちに、突如として救世主が現れました。それは、帝塚山学院大学の森石さんです。私たちの抑えきれない欲求を満たす、完璧なくだおれコースをわずか5分の内にコーディネート、しかもツアーコンダクターまで申し出てくださいました。その「完璧なる計画」とは...

大阪といえば、やっぱりたこ焼き。でも、たこ焼きはメインの食事にはなりません。おいしいところを、ちょっとだけ食べるのが通というもの。そこでまずは、北海道ではあまり見かけない、小さくて少し塩味のある、ソースをかけないたこ焼き。百貨店の地下にそのお店はありました。森石さん、大皿を一人前だけ注文し

て、「はい、ひとり1個づつ、どうぞ」。外側は堅めだけど、中は柔らかくて、うまい。続いて、なんばの街を歩きながら、道頓堀にかかる橋のたもとにあるたこ焼き屋さんへ。ここのたこ焼きは、ソースと鰹節がのっかった、お馴染みのもの。これもやっぱり1個づつ。おいしい。ふと見上げると、そこは阪神優勝の時にケンタッキーおじさんが投げ込まれた場所。ああ、関西...

さて、森石さんの用意してくれたメインのお店は、その名も「くだおれ」。菓の広告などで知られている、あの「くだおれ人形」がお店の前にでーんとありました。森石さん曰く、「ここは大阪で一番おいしいお店ですが、私は来たことはありません」。えっ?なんでも、観光客には非常に有名だけど、わりと高くて地元の人はあまり行かないそうです。ここで私たちは「うどん鍋」を注文しました。総勢17名、17人前を注文しようとする、仲居さんが「13人前くらいにしておいてはいかがでしょう」。そうか、うどんは煮ると増えるから、食べきれないといけないと思って...さすが関西の商売人、客にも配慮してるねえ!ところが、このうどん鍋がおいしくて、学生陣はあっという間に食べ尽くしてしまいました。しょうがないので、追加注文、「あと5人前ほど、お願いします」。すると、さっきの仲居さんが困惑して「あのお、うどん鍋用の太いうどんは切らしてまして、細い麺になるんですが...」がーん。うどんが無いだけだったのね。その傍らでは、野口先生がPowerbookとPHSで「くだおれ」のホームページを披露、仲居さん達の羨望のまなざしを一身に集めていました。(写真参照)



ここは大阪、本家くだおれだ!

その後、森石さんに法善寺と横町を案内してもらい、ツアー終了。最初のたこ焼き屋さんで買ったおみやげを携えて、大満足で宿舍の野外活動センターへと帰りました。宿舍ではたこ焼きをつまみにビールを飲んで(学生は飲んでないよ)大満足の夕食でした。これもひとえに森石さんのおかげです。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。

すっかり食い道楽報告になってしまいましたが、来年のPOEMはさらに南、九州支部がホストで阿蘇にて行われます。すでにこ

の8月に「ミニPOEM」を開催して来年への準備を進めています。ちょっと遠いけど、いまからお金を貯めて、今年参加できなかった皆さんも、来年は一緒に阿蘇へ行きましょう。POEMは楽しいよ。
(文責：事務局 青柳)

ゼンマイ・ハグルマ工房 inOSAKA!

親方：武田 亘明

身近なところに情報機器がたくさんあります。そしてそれらの機器の操作は、ほとんど勉強することなく活用することができます。いや～、便利になったもんです。でも、ちょっとまってよ、どおしてこれらの機器はおもったように動くんだろう？ どうして、電子炊飯器は、朝7時にちゃんとご飯が炊けるんだろう？ そうです。ゼンマイハグルマプロジェクトは、そんな身近な装置の仕掛けと仕組みを学んで、オリジナルな機器を発明、工夫する創造性を爆発させることを目指して、日夜、モーターとリレー、トランジスタ、センサーを組み立てて、それを制御するプログラムを作成しているのです。

あの火星探索ロボットだって通信をつかって、制御されて動いています。僕たちだってきっと作れるんだ！

POEM'97では、尾崎先生をリーダーとして皆で作成してきたロボットを携え、佐々木先生が作成したプログラムを仕込み大阪会



若き科学者たち

場へと乗り込みました。会場では、姫路工業大学付属高校の生徒4名は、2日間とも本工房に弟子入りし、子供たちへのロボット作成指導にあたりました。本当にご苦労さまでした。君たち小さな科学者は、技術立国日本を支えていくのです。訪れた小学生や高校生たちがハンダゴテを片手にロボットを実際に組み立てて、自作ロボットで遊びました。「いや～、これはハマルわ！」というのが参加者皆の感想です。

便利な機器を一度分解して、その仕掛けをじっくり見る。「この目で見てやろう」という好奇心と、柔らかない頭で創造性豊かに新しいアイデアと構想力を以て新しい道具造りに取り組み、輝ける未来を開くのです！

この情報化社会にあって、ブラックボックスの秘密を覗き見して、不思議の国のアリスに会いにいきましょう。

(遠隔サポート：尾崎 廉)

この夏休みは、最高に意義のあるものとなった。今年の春にACEに参加させていただき、情熱にあふれるメンバーに多くのこ

とを学ばせていただいたことに感謝している。

特にPOEMに向けたゼンマイ歯車プロジェクトでは、札幌市内の中学校の先生ならお世話になったことのない人はいないであろう、前任校の同僚だった佐々木利彦先生の協力でロボット制御のプログラムの開発ができた。北野台中学校での秘密会議では、ものをつくるのが少なくなった高度情報通信社会となった世の中において、真剣な眼差しで動く模型の製作に取り組み、完成した「ぶつ」を手にとりて満悦顔の参加のみなさんを見て手作りのすばらしさを再発見した。最新のハイテクノロジーロボットよりも何かに人間味を感じるこれらの模型は世の中で捨てられてしまうであろう旧式のパソコンと簡単なプログラムで息を吹き返した。

我々遠隔支援チームは更に7月末に赤平で合宿を行った。赤平市のエルム高原の管理棟2階を借り、参加した家族の子供たちを実験台にプログラム完成に向けて深夜まで酒を飲みながら取り組んだ、最終的には最北の地稚内北星短大サマーセミナーの会場にまでDocomoの携帯を持ち込み宿舎から携帯電話を振りながら涙ぐましい努力でプログラムを大阪にいる親方の元に送信したのであった。

デジタル学校新聞工房！

親方：由水 伸(道都大学短期大学部)

いよいよPOEM当日、タクシーを飛ばしてMTCに到着。OPEN前の立ち入りを渋る警備員に、「会場の関係者なんだから」と無理やり押し切って、6階の会場に入った。「あれ？」そこには何もなくて、静かに業者が作業を行っているだけであつた。呆気にとられていたとやがて、「荷物運ぶの手伝ってえ」の声が。我に帰ったわれわれは、やっと自分の居場所が見つかった気がして一路1階の荷受け場に向かう。次々と運び込まれる荷物の山。台車いっぱい積んで6階へ運ぶ。しかし、何か不安が。そう、北海道から送ったはずの荷物が見当たらないのである。商売道具のPSプリンタが、競技用の特殊スーツが、まだ着いていないというのである。ここは・・・そう、青柳事務局長に任せて、私は工房造りをしなければ。「頼むね、青柳さん」。

会場側の設営は順調であつた。手勢は大人4名、学生7名の11名。仕事を分担して進める。借用した8500のメモリ増設もした。ディスプレイもつないだ。あとはプリンタを持ってきてドライバをインストールするだけだ。が、そのプリンタが来ない、ぬいぐ



工房全体図。みんな頑張ったよね。

るみ、じゃなかった特殊スーツも来ない。待つこと1時間。やっと到着。プリンタ接続完了、ドライバインストール完了。再起動後、テスト印刷をする。・・・出ない。データは送っているよう

だが、いくら待っても出てこない。「ドライバが違うんじゃないの」憶測が乱れ飛ぶ。ちなみにプリンタは由緒正しい「OKI Microline 801PS」。なんたってポストスクリプトプリンタである。いろいろ試した結果、結局、「このプリンタ、印刷おそーい」が原因だった。5年前は「いいプリンタ」だったのだが、いつのまにかわれわれが「速い」世界に慣れてしまっていたのである。



むすめ三人。めちゃめちゃ頑張ったぞ。

さて、新聞発行の準備はすっかり整った。すでにデジタルカメラを持った取材班が設営中の会場を駆け巡っている。創刊号に開会式の模様を載せるのでそれを待つ。想定される原稿は先回りして入れてある。・・・始まった。「記事を入れる。レイアウトはどうだ。」乱れ飛ぶ指示と確認。「OKか！よし、行け」・・・待つ・・・待つ・・・待つこと15分、「出た！」感動が工房を駆け抜ける。「しかし、時間かかるよね。」「あれ、ここ変だよ」喜びに湧いていたその場に水を差す言葉。空気が突然ピンクからブルーに。

2日間で発行した新聞は3部。予定通りの部数といえばそのとおりなのだが、内容から考えるとあと2部は欲しかった。新聞作成は学生が担当したのだが、文章力が貧弱で記事が進まない。全体を見渡し、今この場で何が起きているかを的確につかまえる力も弱い。機器の操作ももっとキビキビして欲しい。私が思うことはいろいろあった。だが、一生懸命やった彼等は自分たちの弱点を私に指摘されることなく自ら感じ取っていた。どのようになるべきかをちゃんと考えていた。実はこれが昨年、稚内のPOEMに学生を参加させて知った、そして今回のPOEMにも期待していた教育効果である。

やっぱり、今年も学生を参加させてよかった。学生たちは今もPOEMの雰囲気を引き継いでいる。



デジタル学校新聞プロジェクト(4)

「第47回全国学校新聞指導者研修会での速報活動」

札幌星園高校 高瀬 敏樹 (takase@netfarm.or.jp)

北海道の短い夏休みが終わりました。8月4日～6日の3日間、北海道新聞社で第47回全国学校新聞指導者研修会（主催：全国高等学校新聞教育研究会・日本新聞協会）が開催されました。主に高校で新聞局・部の顧問をしている教員が、全国から50名ほど集まりました。

DTP新聞の制作練習をかねて、速報を発行してみたいという生徒を募ったところ、旭丘、開成、星園、道工の7名が集まりました。当初の予定通り、A4版1面の速報を3日間で3号発行する事ができました。特に旭丘の南山君（2年）は出っ張り編集作業にあたってくれました。生徒達の作業を見ていると、記事の作成と見出しを決定に一番時間がかかっていましたが、DTPソフトの操作自体は習熟できたようです。その成果はPDFファイルとしてアップしてありますので、是非ご覧下さい。感想、意見などがありましたら生徒達に伝えたいと思いますので、メールを頂けたら幸いです。

<http://www.aurora-net.or.jp/doshin/group/ACE/shidou.html>にPDFがアップしてあります。

今回の速報活動も、POEM帰りの青柳事務局長、吉田編集長に多大なる協力をいただきました。感謝申し上げます。



夏休み中も新聞製作に励む高校生達

モバイル共同研究中間報告

事務局 吉田

ドコモとのモバイル共同研究をはじめてから1カ月以上が経ちました。とりあえず今まで行った取り組みについて簡単な報告をする必要があると思います。詳細はメーリングリストでご紹介していますが、ここでも簡単に内容をご紹介します。下記のイベントに参加した方々はもちろんのこと、これからモバイルをこのように役立てよう、と思ってらっしゃる方、参考にして下さい。

NTT 北海道移動通信網株式会社

モバイルマルチメディア事業部 御中

謹啓

私どもACE（教育とコンピュータ利用研究会）北海道支部では御社とモバイルコミュニケーションに関する共同研究をさせてい

ただいております。活動の内容については逐一報告を差し上げなければいけないところですが、私どもとしましても可能な限り様々なケースで実験を重ねていく所存ですので、ご報告は1カ月ないしは2カ月単位のサマリーとして提出させていただきたいと存じます。主旨ご賢察の上、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

1) モバイルマルチメディアキャンプにおいて

去る7月12,13日の二日間にわたって、ネットワークコミュニティフォーラム'97・ネイチャーワーキンググループと「モバイルマルチメディアキャンプin支笏湖'97」を開催いたしました。北海道の短い夏の自然を満喫し、人と自然との交流を通してヒューマンネットワークの振興を目指し、また、新しいネットワーク社会の可能性を開く移動体通信を活用したインターネットに関するさまざまな実験を行い、モバイル・コミュニケーションを肌で実感することを目的とするという主旨の元で行われたこのイベントでは、携帯電話などを使用した様々な企画を実践し、参加者が「モバイル」を身近に感じるきっかけを作りました。また、野外教育活動などのケースにおいてモバイルがどのように活用できるのかを試す良い機会ともなりました。

■ 実施企画

1. 「札幌・支笏湖実写ルートルートマップ」
2. 「丸焼きオンデマンド」
3. 「夕日オンデマンド」
4. 「デジタル押し花支笏湖携帯オリエンテーリング」
5. 水中携帯電話の実験（詳細はレター7月号）

2) POEM'97 大阪について

ACEでは全国規模の催しとして「楽しく学ぶマルチメディアのパーティ・POEM (the Party On Education of Multimedia)」を実施しています。北海道支部ではこのイベントの「工房売り込み合戦」に参加するに当たって、携帯電話によるモバイル通信を下記のように役立てました。

1. デジタル学校新聞において

道都大学の学生たちがイベント会場の模様を現地でDTPを駆使して速報を展開しましたが、これをアドビアクロバットのPDFファイルにしてWebにも掲載しました。(http://www.aurora-net.or.jp/doshin/group/ACE/poem.html) イベント会場では通常の電話回線の確保が難しく、PDFファイルのアップロードは携帯電話を通じて行いました。

2. 「ゼンマイ・ハグルマ工房」において

様々な科学おもちゃをBASICのプログラムを通じて制御する、というプロジェクトでは、当日にプログラムの不具合が生じることを危惧し、実際にプログラム制作に当たった先生(当日は別のセミナーのため稚内)に携帯電話を持っておき、もしバグが見つければ修正してFTPで送り込んでもらう、という手筈を整えました。実際に、2度FTPをかけるケースが発生しました。

3. メールによる実況中継

当日イベントに参加できなかった方々にメーリングリストによる会場の実況中継を行いました。

3) 教育技術法則化北海道地方合宿のコンピュータ活用講座

7月26日～27日の日程で、空知管内長沼町において開催された表記の研究会が開催され、26日午後3時から1時間、コンピュータの美術の授業での活用事例、並びに、携帯電話とノートパソコンを利用して、インターネットの利用についての講座を行った。

特に移動体通信の特長の一つである「電話線がないところでのインターネットの活用」を体験し、授業や課外活動での応用を考えることを目的として、ACE会員2名が講座を担当した。

4) 第23回全日本6人制バレーボールクラブカップ選手権大会・速報

8月9日～12日の日程で、千歳市において開催された表記の大会で、携帯電話とノートパソコン、ホームページ掲示板ソフトを利用して、試合経過および結果の速報を行いました。移動体通信の特長である「野外活動における機動力と速報の有用性」を体験し、授業や課外活動での応用を考えることを目的として、千歳市内のACE会員2名が取り組みました。

コンピュータミュージック 1日体験講座開催！

札幌音楽専門学院・札幌文化アカデミー
コンピュータミュージック科講師
見澤 眞左美 <masami@netfarm.or.jp>

8月17日(日)、夏休みもそろそろ終わりという夏の1日、「コンピュータミュージック1日体験講座～For Macintosh～」と題された、DTMの講座が札幌音楽専門学院3Fホールにて行なわれました。

毎年、恒例となっているこの1日体験講座も今年で5回目。

おかげさまで、一般の人達にも広く知っていただけるようになり、一般・高校生、初心者の方から上級者の方まで幅広い受講者の方々が参加され、各々思い通りの接し方でコンピュータミュージックを楽しんでいらっしたようでした。

受講者のみなさんのアンケートを見ると「インストラクターの人が1人1人についてくれたのでとてもわかりやすく学ぶことができました。」「また、参加してみたい!」と非常に好評な様子で、一安心です。

今回使用したソフトウェアはEZ-VISION3.0J(札幌音楽専門学院コンピュータミュージック科の学生も、みんなここからスタートし、ステップアップしていきます) 初心者の方にも手軽にコンピュータミュージックを楽しんでいただける超簡単なソフトです(多分)。そして、一人一人にアシスタントインストラクターが丁寧に指導。

マックに初めて触れる方もたくさんいらっしたようですが、皆さん上手にコンピュータを操り、用意された楽譜の中から1曲を選び、コンピュータミュージックの醍醐味を感じとっていらっしたようでした。

また、受講したみなさんの「とても楽しかった!」という声の反面「もっと時間が長ければなあ」との意見もちらほら。そこで、次回は時間を3時間に延長して行なう予定です。

来年も更にわかりやすく、魅力的なコンピュータミュージックをみなさんにお届けします!

是非、皆様お誘い合わせの上お越しください。お待ちしております。

来年度は11月に開催する予定でいますので、案内を御希望の方はお気軽に電話などいただけたら幸いです。

ご連絡は011-261-6131またはsiminfo@netfarm.or.jpまでお願いします。

10 月度研究会のお知らせ！

次回研究会のお知らせです。

6 月の千歳に続いて、札幌を飛び出して様似の小松先生のところにお邪魔しての開催となります。何かと行事の多い季節ですが、万障お繰り合わせの上ご参加いただけるよう、宜しく願い申し上げます。

なお、日程は現時点でまだ予定ですので、変更がありましたら来月のレターでお知らせします。

懇親会は温泉か？

記

と き	10 月 25 日（土）時間未定
ところ	様似町立図書館（予定）
内 容	様似町の情報関係の取り組みについて モバイル共同実験の途中経過 バーチャル雪まつりなど

モバイル実験小説「BUG ～バグ～」

（解決編）

森田 素生

ごめんっ！前回何の断りもなしにすっ飛ばしました。

（あらすじ：5,6 月のレターを見てね。Web にもあがってるし）
さて、解決編です。

「話を変えますか。コンピュータの専門家であるあなたにお聞きたいのですが、データ通信で一体どんな事ができるんですかね？初心者なもので良くは知らないんですが。」

「まあ、例えば・・・グラフィックや文書などのデータを送ったり、FAX を送ったり、逆に相手先の機械からデータを引き出したリ・・・」

「それと電気器具のコントロールですか。最近の機械はパソコンとケーブル 1 本で繋げるようになっていきますからなあ。リモコン付きの機械も多いし、便利な時代になったものです。」

「なっ、何！ついに本題をついてきたか！しかし、証拠は何もない。私は犯行現場に足を踏み入れていない。冷静に対処すれば問題は無い。無いはずだ。そう思いながらも少々顔が青ざめた。」

「お話はこのへんでいいですか。私も仕事がありますので」

「あ、いやいや。時間は取らせませんので。ここからが本題です。実は死体の発見状況についてマスコミ等には流していない情報がありましたね。聞きたくありませんか？」

「いいえ。聞きたくありません」

「すみませんが、関係者には聞いてもらうことになっていますのでね。いやでも聞いてもらいますよ」

中年男は強引に話を進めた。ここは覚悟を決めて聞いてやるしかないだろう。

「12 時 10 分頃にですね。彼女は死んだらしいのですがどうもそのときの死に方が気にかかりましてねえ」

「ほう、なんですか」

「彼女はよほど歌が好きだったんでしょうね。死んでからも歌い続けていたようなんですよ」

私は一瞬なにをいわれたのか理解できなかった。しかし、何と

なくはなかった。私が大きなミスをしたらしいということが。

「ど、どういことですか」

「彼女は 12 時過ぎに歌を歌い始めたんですよ。大きな声でね。隣の管理人は・・・彼はかなり年老いた方でしたが、十分聞こえる音量だったそうです。そして数分後、彼女は悲鳴とも何ともとれない声をその大音量であたりに響かせたのです」

私は息をのんだ。そんなことがあるはずがない。なぜならそのとき豚はすでに死んでいたのだ。

「大慌てで管理人は彼女の部屋に駆け込んだところですね、部屋のステレオからその音はでていました。CD がかかっていたんですよ」

「そんな馬鹿な。CD が異常再生するはずがない。CD のリードエラー率は 10 のマイナス 7 乗だぞ。」

思わず私は反論してしまった。もう後戻りはできない。

「ほう、よくご存じで」

刑事がほほえんだ。そしてさらにこう続けた。

「確かにその通りです。管理人は訳も分からず止めようとステレオに近づき、電源ボタンを押しました。しかし、スイッチは切れませんでした。そのステレオは部屋のパソコンからのリモートコントロールで動いていたのです。そしてその管理人のご老人はなんと・・・パソコンの電源コードをあささり引っっこ抜いてしまったのです。しかもです、不運なことに無停電電源装置にもつながっていなかったで完全に停止してしまったのですよ。今時パソコンの電源をいきなり切るという暴挙にでる人間もほとんど居ないですからなあ」

「そして H D は科技研行きですか」

「その通り。そしてつい昨日、やっと破壊されたプログラムの修復が終わりました。物的証拠が現れたわけです。署までご同行願えますかな」

「ハハハハ・・・」

私は笑うしかなかった。ハイテクを駆使して作り上げたアリバイ工作がよりによって

そのハイテク機器によって破られたのだから。

「私の負けです、刑事さん。完全なる敗北です。しかしまあ、遠隔犯罪というのも犯罪史上初めてではないでしょうかね」

「そうでしょうなあ。警察学校の教科書に名前が残るかもしれませんし、各種メディアには派手に取り上げられるでしょう」

「そんなものは 1 週間で忘れ去られてしまいますよ。それよりも刑事さん、一つ聞きたいことがあるのですが」

「どうぞ、なんでも」

「いったいどうして CD がリードエラーを起こしたのです？話を聞いているとそれが解決の引き金になっているようですが」

「いやあ、それなんですがね。羽虫ですよ」

「はあ？」

「よっぽど掃除がいい加減だったようでしてね、CD に羽虫の死骸がくっついていたんです。なかなか皮肉な理由ですな」

「いや、本当に。私の生涯最大の BUG ですな。ハハハ・・・」

私は笑いながら愛用のノートパソコンや PHS が入ったアタッシュケースを持ち上げた。

「行きましょうか、刑事さん。ところで刑務所に電源とモジュラージャックは・・・あるはずないですよ」

「電話線はもちろん無いし照明に電球 1 個を使っているだけですが」

「それだけあれば十分です。電話代がかさむかもしれないでしょうがね」

「司法取引でもして独房内にパソコンの持ち込みを認めさせる気か？そこまでしていったい何をしようというんだ？」

若い刑事が不思議そうにつぶやく。私はその答を出してやった。
「アクセスするんですよ」
「いったいどこに？」
「このメガロポリスの、未来へ・・・」

-----END-----

あとがき

私の S F (simulation fiction) 第一弾をお届けします。すぐそこにある、近未来。信じられないような現実が待ちかまえています。事実、現在可能な技術だけで構成されています。

まあ、先端技術を追っかけていないとフルに理解できないのではないかと思います。(特に各種用語)というわけで用語解説及び設定を述べさせてもらいます。

設定：一応 2001 年・首都圏ということになってます。この年代の意味は政令指定都市クラスの大都市の家庭まで光ファイバーケーブルが入るのが 2005 年という事になっているので、そのちょっと手前という事で。

BUG：この小説のタイトルにもなっていて、最近はゲーム機の普及により一般化した言葉ですが、語源は以外に知られていません。現在はコンピュータプログラムの間違いという意味が一般的ですが、本来「虫」の意味です。

CD - RE (Re-Writable)：読み書きができる CD。つまり、録音した後、データを書き込んだ後に消して別の物を入れることができます。九七年四月発売。

最後に・・・

この物語はフィクションである。
が、10 年後は定かではない。

編集後記

POEM '97 行って来ました。

私にとっては初めての POEM ですが、会期中はなかなか他の支部の先生方と交流が出来なくて残念でした。その分宿舎とか、イベントが終わってから、大阪案内をしていただいたり(森石先生ほんとありがとうございます)いろいろと楽しめたと思います。

来年開催の熊本と九州支部にメールを送りつつ、全国的な活動もいろいろと考えていきたいとえらそうに思っている犬でした。



いぬ

(吉田)

暑い暑い夏ももう終わりという今日この頃みなさんいかがお過ごしでしょうか？こんばんは、見澤@札幌音楽専門学院です。

いやー、ACE 北海道さんのご協力にて、うちの学院のコンピュータミュージック 1 日体験講座も無事終えることができました。ホントにありがとうございます！

また、ご参加いただいた、野口先生、永木先生ありがとうございます。わかんない事あったら、お電話ください。(講習後、「今日を機会に私は変わります、...」という謎のメールを残し、T-ZONE に消えて行った野口先生。その後一体どうしている

のでしょうか・・・?) みなさんも、家のマックで音楽やりたいときには声をかけてください。いろんな特典を用意しております。

来月は、「デジタル押し花」でたくさんのみなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

それでは！

(見澤)

今回の POEM で一番心配の種だったのが、学生の飛行機。彼ら、スカイメイトなので私と同じ便に乗れる保証がない。行きなら、関西空港で待ち合わせ、といけるのだが、帰りは最終便。もし乗れなかったとして置いてくるわけにもいかない。幸い、大阪難波のカウンターで朝のうちにスカイメイトでも予約を入れてくれた。おかげで、最終日は気兼ね無く大阪観光を楽しめた。日本航空のお姉さん、有り難うございました。(由水)



のぐちっち

荒島@札幌発寒中です。今日は写真を運んただけで原稿を書きませんでした、残念！今年の POEM も無事に終わりました。それでも ACE 北海道はまだまだキャラバンが続きます。こんど PDF の講習会をやろうね吉田変酋長！！(荒島)

大阪はとても暑いところでした。あの土地であれだけのバイタリティーを持ち続けている、関西の人びとを尊敬します。ということは、九州の人びとはもっと尊敬し、台湾の人 はもっともっと尊敬し、マレーシアの人に至ってはこれ以上無いくらいに尊敬しなければなりません。あの赤道直下でスーパーコリドーを作ろうとしてるんですもん。それはそうと、以前お知らせしたとおり、貸出機材を近く一時返却していただくことになります。といってももう貸さない訳ではありませんが、一度整理をつけたいと思います。ご協力をお願いします。(青柳)

いじめを苦に自殺する子供が、どうしてこんなに増えちゃったんだろう。どうも学校の存在が大きすぎるのが問題のような気がする。所詮、学校で学ぶことが出来ることは限定的なものに過ぎない筈。学校の機能をもっと絞り込んで、スリムな機関を目指すべきと思う。今、一番必要なのは学校のリストラでしょう。(高瀬)

なんで皆んな、インターネットだのマルチメディアだのって騒いでいるんじやい。それでなんか生活が変わったかい？なんか生活豊かになったかい？なんか儲かったかい？人間幸せになれたかい？これから先はどうなんだい？どーも、怪しい気がするんだよ。もっと人間の話をしてないだめなんでないかい？もっとばあちゃんやじいちゃんとじっくり昔話をしないとだめでないかい？CD-ROM もホームページもサーバーもハッチャキで作ってきたよ。ここらでもう一度、裸足で砂浜歩いてみるか。子供と遊んでみるとするか。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

1997 年 8 月 26 日発行